

平成28年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成28年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成29年9月14日(木)～15日(金)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者36名、委託関係者34名ほか、計88名の参集を得て、除草剤19薬剤(113点)、生

育調節剤1薬剤(3点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成28年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験判定

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
A. 除草剤 (1) 小麦									
1.AH-01液 グルホシネートPナトリウム塩:11.5% [北興化学工業 *MeijiSeikaファルマ]	実・継	一年生雑草	茎葉処理 (圃場内 周縁部)	小麦生育期・ 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500mL 散布水量 100L	全土壌	北海道	・周辺作物に飛散しないように注意する。	・効果、薬害の確認 (耕起または播種前)
2.DPX-16顆粒水和 チフェンスルフロメチル:75% [デュポン・プロダクション・アグリサイエンス]	実・継	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ	土壌処理 (全面)または茎葉兼土壌処理(全面)	播種後～節間伸長前 スズメノテッポウ5葉期まで	5～10g 散布水量 50～100L (播種後～小麦2葉期処理は水量 100L、10gの 小麦3葉期以降の処理は水量 25～100L)	全土壌 (砂土を除く)	東北～四国	・単用での茎葉処理の場合は7.5～10g/10aでの使用が望ましい ・少量散布(25L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。 ・播種後処理の場合はヤエムグラに効果が劣る。 ・処理後散布器具をよく洗浄する。	・散布水量の拡大 ・薬量3g/10aでの節間伸長期以降の効果、薬害の確認(東北以南)
				小麦1葉～節間伸長前 スズメノテッポウ5葉期まで	九州				
				幼穂形成期	7.5～10g 散布水量 100L		北海道		
		一年生広葉雑草	茎葉処理 (全面)	節間伸長開始期～穂ばらみ期、雑草4葉期まで	5g 散布水量 100L	東北以南			
カズノコグサ		小麦1葉～節間伸長前 カズノコグサ1～3葉期	10g 散布水量 100L	九州	・土壌処理剤との体系処理で使用する				
ギンギン類		小麦幼穂形成期、ギンギン生育期	3～5g 散布水量 100L	北海道	・効果の完成に時間が掛かる場合がある				
3.JAC-01液 ベンタゾンナトリウム塩:40.0% [日本アグロサービス]	継								・効果、薬害の確認
4.KUH-165フロアブル ジフルフェニカン:7.4% ピロキサスルホン:7.4% [クミアイ化学工業]	-								(作用性)

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準						継続の内容		
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意	
5.NC-622液 グリホサートカリウム塩: 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉処理 (全面)	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・散布水量5～ 6L/10a、25～ 50L/10aの場合は 専用ノズルを使用 する。 ・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・薬量200mL/10a、 散布水量5～ 6L/10aでの年次変 動の確認(耕起また は播種前) ・薬量200～ 500mL/10a、散布 水量5～6L/10aで の年次変動の確認 (播種後出芽前、東 北以南) ・薬量200mL/10a、 散布水量5～ 6L/10aでの効果、 薬害の確認(圃場 内周縁部)	
				播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～500mL 散布水量 25～100L					
			茎葉処理 (圃場内 周縁部)	小麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～500mL 散布水量 25～100L		東北以南			
					500mL 散布水量 5～6L					全域
		多年生イネ 科雑草(シ バムギ、 レッドトッ プ)	茎葉処理 (全面)	耕起前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～500mL 散布水量 25～100L		北海道			
6.NH-009液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	実・継	一年生雑草	茎葉処理 (全面)	播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈10cm以下)	300mL 散布水量 100～150L	全土壌	東北以南	・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・効果、薬害の確認 (耕起または播種 前) ・薬量500～ 750mL/10aでの効 果、薬害の確認(播 種後出芽前、圃場 内周縁部)	
			茎葉処理 (圃場内 周縁部)	小麦生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下)						
7.SCC-010液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	実	一年生雑草	茎葉処理 (全面)	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈10cm以下)	300～750mL 散布水量 100～150L	全土壌	東北以南	・周辺作物に飛散し ないように注意す る。		
				播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈10cm以下)	300～500mL 散布水量 100～150L					
			茎葉処理 (圃場内 周縁部)	小麦生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下)						
8.トリフルラン乳 トリフルラン44.5% [日産化学工業]	実・継 (従来 どおり)	一年生雑草 (ツク サ科, カヤ ツグサ 科, キク, アブラナ科 雑草を除く)	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前雑草発生 前	200～300mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	全域	・小麦生育期処理 は、播種後の土壌 処理剤との体系で 使用する。	・カズノグサに対 する効果の変動要 因の確認 ・小麦生育期にお ける効果、薬害の 確認(北海道)	
		一年生イネ 科雑草		播種後～小 麦3葉期、イ ネ科雑草1葉 期まで						北海道
		一年生イネ 科雑草、 カズノグサ		小麦生育 期、 雑草発生前						東北以南

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	

A. 除草剤 (2) 大麦

1.JAC-01液 ベンタゾンナトリウム 塩:40.0% [日本アグロサービス]	継								・効果、薬害の確認
2.NC-622液 グリホサートカリウム塩: 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑 草	茎葉処理 (全面)	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L	全土壌	全域	・散布水量5~ 6L/10a、25~ 50L/10aの場合は 専用ノズルを使用 する。 ・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・薬量200mL/10a、 散布水量5~ 6L/10aでの効果薬 害の確認(耕起また は播種前) ・薬量200~ 500mL/10a、散布 水量5~6L/10aで の年次変動の確認 (播種後出芽前) ・薬量200mL/10a、 散布水量5~ 6L/10aでの年次変 動の確認(圃場内 周縁部) ・散布水量5~ 6L/10aでの一年生 イネ科雑草に対す る効果の年次変動 の確認(播種後出 芽前、圃場内周縁 部)
					500mL 散布水量 5~6L				
				播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L				
					200~500mL 散布水量 5~6L				
3.NH-009液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	実・継	一年生雑 草	茎葉処理 (全面)	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈20cm以 下)	300mL 散布水量 100~150L	全土壌	全域	・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・薬量500~ 750mL/10aでの効 果薬害の確認(耕 起または播種前、 播種後出芽前、圃 場周縁部)
				播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈10cm以 下)					
				茎葉処理 (圃場内 周縁部)					
4.SCC-010液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	実	一年生雑 草	茎葉処理 (全面)	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈20cm以 下)	300~500mL 散布水量 100~150L	全土壌	全域	・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	
				播種後出芽 前 雑草生育期 (草丈10cm以 下)					
				茎葉処理 (圃場内 周縁部)					

A. 除草剤 (3) いぐさ

1.NC-360フロアブル キザロホップエチル:7% [日産化学工業]	実・継	一年生イネ 科雑草	茎葉処理 (落水、全 面)	いぐさ生育 期、イネ科雑 草3~8葉期	200~300mL 散布水量 100L	全土壌	全域	・スズメノカタビラに は効果劣る	・畑苗での年次変 動の確認
---	-----	--------------	---------------------	---------------------------	---------------------------	-----	----	---------------------	------------------

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	

A. 除草剤 (4) 水稲刈跡

1.DBN4.5粒 DBN:4.5% [アグロカネショウ]	継									・効果、薬害の確認
2.JC-401粒 (旧NHS-50) 塩素酸ナトリウム:50% [日本カーリット]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草、多年生イネ科雑草、マツバイ	土壌処理(全面)	水稲刈取後雑草生育期	20~25kg	全土壌	東北以南			・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・オモダカ、セリに対する当年の効果、および翌年の発生量低減効果の確認
3.NH-009液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	実	一年生雑草	茎葉処理(全面)	水稲刈取後、雑草生育期(草丈30cm以下)	300~500mL 散布水量 100~150L	全土壌	東北以南			
4.SCC-010液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	実	一年生雑草	茎葉処理(全面)	水稲刈取後、雑草生育期(草丈30cm以下)	300~500mL 散布水量 100~150L	全土壌	東北以南			
5.YF-65L液 ジクワット:7.0% パラコート:5.0% [シンジェンタジャパン]	継									・雑草イネに対する密度抑制効果の確認

A. 除草剤 (5) 水田畦畔

1.SBH-207粒 塩素酸ナトリウム:50% [エス・ディー・エスバイオテック]	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草	土壌処理(全面)	水稲刈取後、雑草生育期(草丈30cm以下)(水田畦畔)	20~40kg	全土壌	東北以南			・多年生イネ科に対する除草効果の確認
---	-----	---------------	----------	-----------------------------	---------	-----	------	--	--	--------------------

B. 生育調節剤 (1) 小麦

1.エテホン液 エテホン:10% [2, 4-D協議会]	実	・小麦対象 ・節間伸長抑制による倒伏軽減	茎葉処理(全面)	止葉期~出穂始期	75~125倍 散布水量 25L	全土壌	北海道	・止葉期とは止葉が確認できた日を目安とする	
					300~500倍 散布水量 100L		全域		
				出穂始期	300~500倍 散布水量 50~100L		東北以南		